

令和3年度

専門学校東京クールジャパン
学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自：令和3年4月1日

至：令和4年3月31日

学校法人Adachi学園

専門学校東京クールジャパン学校関係者評価委員会

令和4年6月15日作成

専門学校東京クールジャパン 学校関係者評価委員会は『専門学校東京クールジャパン 令和3年度自己評価報告書』に基づいて学校関係者評価を実施したので、下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員

委員	所属等	選任区分等
松田 敏博氏	全国私立通信制高等学校協会前事務局長	有識者・高等学校理事・副校長
藤沢 理子氏	株式会社エッジワークス 取締役	関連分野企業役員
松本 翔吾氏	有限会社ゼクシズ	卒業生・関連分野企業在職
岡崎 千治氏	千駄ヶ谷大通り商店街振興組合千駄ヶ谷グリーンモール理事	地域関係者・都市計画審議会委員

2. 本校出席者

氏名	職務等
工藤 憲子	専門学校東京クールジャパン 学校長
野中 智之	専門学校東京クールジャパン 事務長
本木 能之	専門学校東京クールジャパン ゲーム総合学科 学科長
真家 祐也	専門学校東京クールジャパン アニメ総合学科 学科長
西岡 創	専門学校東京クールジャパン 声優学科 学科長
川上 美樹	専門学校東京クールジャパン グローバルキャリアデザインセンター センター長
井上 正樹	専門学校東京クールジャパン ゲーム総合学科 教諭
前手 俊和	専門学校東京クールジャパン 事務局

3. 日時・場所

日時：令和4年6月10日(金) 14:00～16:10

会場：専門学校東京クールジャパン 202教室

4. 委員会次第

- ・開会あいさつ
- ・学校長挨拶
- ・参加者紹介
- ・令和3年度の主な学校行事・運営面での振り返り
- ・自己評価結果について基準ごとに説明、質疑応答、審議
- ・意見交換
- ・閉会 閉会后学内施設・設備の見学、紹介

以下、基準項目ごとの自己評価・学校関係者評価・意見

基準1 教育理念・目標					
自己評価（評定・現状・課題・改善）					
評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
1-1	学校の理念・目的・育成人材像はさだめられているか	4	3	2	1
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
1-4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	3	2	1
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1
①現状					
<p>日本の「ゲーム」や「アニメ」は長年、海外からも注目されているカルチャーでもあり、一大産業ともなっている。専門学校東京クールジャパンでは、ゲーム業界、アニメ業界・声優業界を担っていく人財育成のため、教育の理念、目的を定めている。</p> <p>「感動」を『感動』でつなげる学校とは、自分自身がゲームやアニメから受けた感動を忘れずに、今度は他の人のために新しい感動を生み出そうとし続ける人財育成を目指す学校ということであり、それに基づいて最新技術を身に付けながら創造性を高めるカリキュラムを作成している。企業とのつながりの中で業界のニーズもキャッチし、反映している。</p>					
②課題					
<p>教育理念や目的は、学校案内などのパンフレットやホームページなどで紹介、館内の掲示、学生証アプリ（電子学生証）を活用し在校生や保護者に向けた発信を継続している。在校生や保護者、ほか関係者にとっては、時間割や年間スケジュールなどの情報や、就職実績、就職指導内容などの情報も重要であり、その伝達にも注意を払わなくてはならない現状もある。しかしながら上記のような具体的な情報も、根本にある教育理念を認識してもらうことでより深く理解されるものと思われる。認識いただく機会の創出が必要である。</p>					
③今後の改善方策					
<p>パンフレット、ホームページの媒体での露出、進学イベントや入学説明会においても、周知する機会を設け、教育の節目となる場において認識できるようにしていく。また教員研修、講師会などの場においても教育理念の重要性を繰り返し確認し、教職員全体が、浸透させていくという目的を共有する。</p>					
学校関係者評価・コメント					
<p>●保護者への働きかけの一環として、在校生の活動報告（作品や発表等成果報告）を見る機会を設けて欲しい。また保護者会の開催も保護者の立場としては必要であると感じている。</p> <p>実際、我々の業界分野である企業や専門学校の活動は、一保護者にとってなかなか理解されにくいと自認している。</p> <p>SNSや最近盛んになっている配信プラットフォームを活用するなど保護者や業界へのアプローチの方策を講じてみてはいかがか。</p> <p>（藤沢委員）</p>					

基準2 学校運営				
自己評価（評定・現状・課題・改善）				
評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1		
2-6	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2 1
2-7	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2 1
2-8	運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2 1
2-9	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	2 1
2-10	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2 1
2-11	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2 1
2-12	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2 1
2-13	情報システム化等による業務の効率化がはかられているか	4	3	2 1
①現状				
<p>(2-6、7) 学生がゲームやアニメのオリジナル作品を制作できる学校運営という方針にしたがってカリキュラム、教育イベントなどを策定。コロナ禍により、予定の変更を余儀なくされることもあったが、オンライン上のポートフォリオ展、外部会場のセレクト展といった教育イベントなど実施してきた。</p> <p>(2-8) 学校長のもと各部署の代表による運営会議を毎週開催し、学校運営の方向性の決定をしている。</p> <p>(2-13) オンライン授業用のシステム、学生証アプリの導入、学内情報共有はオンラインシステム（Teams）の活用が定着。教職員個人に携帯用タブレットを配布業務活性化につなげている。</p>				
②課題				
<p>年間計画を策定し、業務分掌による運営を行ってきたが、コロナ禍による制限下での対応、目的意識の浸透、実施結果の検証などは十分とは言えない。</p> <p>複数のシステムを運用しており、それぞれの特性を活かしてはいるが、一元管理については改善の余地がある。学生管理システムが老朽化のため不具合を起こしており、対応を要する。</p>				
③今後の改善方策				
<p>教育方針の実現は、新たな組織、業務チームが中心となり行っていく。実施のみにとどまらず、検証と改善を重ねていくことを指針とする。</p> <p>学園全体の学生管理システムの更新予定も踏まえ、学内における管理体制の見直しを検討する。</p>				
学校関係者評価・コメント				
●特になし				

基準3 教育活動					
自己評価（評定・現状・課題・改善）					
評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
3-14	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
3-15	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているのか	4	3	2	1
3-16	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているのか	4	3	2	1
3-17	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4	3	2	1
3-18	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	3	2	1
3-19	関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
3-20	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
3-21	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
3-22	成績評価・単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
3-23	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
3-24	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
3-25	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
3-26	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みがおこなわれているか	4	3	2	1
3-27	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1
①現状					
<p>各業界への就職・デビューを念頭に置き、実習・実技を中心としたカリキュラム編成とするための会議を外部委員と共に行い、授業への反映や、企業ならびに法人契約の講師を含めて関連分野の指導が可能な講師を引き続き有している。</p> <p>成績・単位の評価基準の明文化、学生から授業評価を受けるための「スチューデントエコー」も引き続き実施しており、学生の学習環境において問題無しと捉えている。</p> <p>また職員研修については教職員全体を対象とするものと、各業界・分野の専門的な勉強会を実施し、職員の能力向上に努めている。</p>					

②課題

コロナウイルスの影響が未だ残ることで研修関連が当初の計画からずれたり、手をこまねく状況が続いていたが、現状を踏まえた上で、いかに従来通りの動きや教育効果を学生に提供できるかを考えていく。

産学連携や企業提携の他、例えば「アニメジャパン」や「東京ゲームショウ」と言った外部の主たる教育イベントに関しても、オンライン開催に加えてオフライン（対面）での実施をするなど新たな動きもあり、教育現場においてもウィズコロナ／アフターコロナを見据えた取り組みを意識していく必要があると考える。

③今後の改善方策

授業の流れや進行も軌道に乗ってきたが、オンライン授業・対面授業の双方の利点を意識しつつ、教育効果の偏りが出ないように注視し、細かな修正などを図っていききたい。

外部との連携に関しても各業界の組織・団体との取り組みを強め、オフラインのイベントにも積極性を持って参加し、学生の成果をより広く発信していくことで教育効果の更なる向上に努めたい。

教職員の指導力向上に関しては未だ計画が立てづらい状況ではあるが、引き続きオンライン・対面を活用した研修を計画し、教職員の技術学習と意識向上を計っていくことを目指したい。

学校関係者評価・コメント

●コロナ禍において、オンライン授業の導入する一方、実技中心に行わざるを得ない授業など試行錯誤のなか実施してきたことに敬意を評する。しかしながら、コロナ禍にあって大きく売り上げを伸ばしてきたのもゲーム業界である。授業以外でもSNSなどを通じた学生の自主的なアウトプットの機会をもたせ、その展開の中で自分なりのモチベーション意識や自らが発信していくという方向性は、今後就職・デビューを目指す際にも必要とされる素養であり、企業側の立場からも応援したい。（藤沢委員）

●企業においても業界の体質的な変化が感じられるようになった。従来のフリーランスを活用し1枚いくらの低賃金での作品作りの現場から、正社員として雇用を増やし、業界でアニメ教本を発刊するなど社内教育を強化して業界としての未来をになう人材育成を考えるようになった。コロナ禍において圧倒的に不足していたコミュニケーションの機会が改善されつつあるなかで、質問や話し合いができるというコミュニケーション能力の重要性が一層高まっているので、対面授業やプレゼンテーションを重視している学校での取り組みを評価する。（松本委員）

◎学校側としては、いつまでも「コロナだからしょうがない」と言っている状況ではない。この状況下でも・こんな状況だからこそその伝え方や対策を考慮し取り組んでいく。

基準4 教育成果				
自己評価（評定・現状・課題・改善）				
評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1		
4-28	就職率の向上がはかられているか	4	3	2 1
4-29	資格取得率の向上がはかられているか	4	3	2 1
4-30	退学率の低減が図られているか	4	3	2 1
4-31	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2 1
4-32	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2 1
①現状				
<p>グローバル・キャリアデザインセンターでは、オンラインを活用したホームルームやキャリア授業を利用した就職セミナーや企業説明会を、また授業以外では目的別セミナーとして苦手克服ゼミを通年設定しており学生個々の活動進捗や目指す業界・職種・企業に合わせて『いつでも就活がstart出来る』という安心感を感じられる体制をとっている。</p> <p>就職イベントは企業とのマッチングを目的として活用しており、その中心は1年次の作品成果プレゼンテーションとなる作品展2回（10月、3月）、Adachi学園姉妹校18校合同企業説明会（11-12月）、2年次のオーディション（10月）であり企業との出会いの場として成果を挙げている。</p> <p>退学率については、コロナ感染症の影響だけではないが、経済的問題以外でも心理的、心身的要因により通学困難となり継続出来なくなる傾向も見られた。該当する学生については共有フォルダに情報を記録して共有を図ったが担任による対応にとどめず、キャリアのある他職員を交えた面談の機会を設ける取組みも必要である。</p>				
②課題				
<p>多方面で活躍している卒業生を招き就職イベントの一環で講演会や作品審査依頼を行うなど情報交換や外部評価の機会を増やしているが未だ教育活動の改善には至らない状況である。</p> <p>また資格取得等の体制としては就職に必ずしも必須ではないが、出来るだけ各学科のニーズに合った取得目標資格を設定し、資格試験の日程に合わせて、対策講座や直前講座などを実施し、取得率の向上を目指したい。</p> <p>多様な目的に合った講座を開講した。具体的には昨年8月に希望者制で国内旅程管理（旅程管理主任者資格取得）取得の研修会を学内で実施。</p> <p>JLPT（日本語能力試験）の対策の1つとして時間や場所を問わず学べるようにオンラインツールを活用してテキストや動画をUPしてフォローアップを試みた。</p> <p>自己肯定感を高める機会にもなる事から継続出来る資格取得支援について検討していきたい。</p>				
③今後の改善方策				
<p>卒業生の動向の把握については時代背景を基に学科統廃合の経緯がある事からも、未だ限定的であり、卒業後の活躍や評価について掌握出来ているとは言い難い。</p> <p>卒業生交流サイトの設置など有用性や運営面で生じる問題を考慮しつつ検討していきたい。</p> <p>退学率低減については、出席率の低さは退学の兆候を示しており、早期に把握するためには面談を行い学生管理チーム全体で対応を検討、授業の遅れに対してはその原因を究明し個別指導に切り替える。</p> <p>健康面や精神面からの長期欠席者に対しては保護者、専門家を交えて今後の修学におけるフォロー体制の検討も考慮していきたい。</p>				
学校関係者評価・コメント				
●特になし				

基準5 学生支援					
自己評価（評定・現状・課題・改善）					
評価項目		適切・・・4	ほぼ適切・・・3	やや不適切・・・2	不適切・・・1
5-33	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-34	学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
5-35	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-36	学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	4	3	2	1
5-37	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
5-38	学生の生活環境への支援はおこなわれているか	4	3	2	1
5-39	保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
5-40	卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
5-41	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
5-42	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか？	4	3	2	1
<p>①現状</p> <p>コロナウイルスの影響により学修の継続が困難となった学生への経済的支援としては学費納入期限の延長のほか、公的な支援制度である日本学生支援機構や高等教育の修学支援新制度の対象校として事務局で受け入れ及び対応を行う。</p> <p>進路・就職に関する支援体制としてグローバル・キャリアデザインセンターを設置、通年を通して就職セミナーや企業説明会をオンラインで開催しており、学年学科専攻問わず参加できる形式が特長。学校保健法に従い健康診断の実施や感染防止に係る食事時の注意喚起は随時行い、ワクチン接種日、翌日は欠席にしない柔軟な対応を配慮している。</p> <p>低廉で良好な住居の提供を目的として本学園専用の外国人留学生も利用可能な女子寮のほか学生寮や学生マンションと提携し便宜を図っている。</p> <p>高校等との連携したキャリア教育・職業教育の取り組みの開催は顕著で実施に相応しい機材完備の専用教室も整備、エンタテイメント分野の人気の高さも相まって募集効果に寄与している。</p>					

②課題

学生生活全般にわたる種々の問題についての相談は、基本的に担任、留学生は留学生担当が対応している。

専任のソーシャルワーカーやカウンセラーの配置の検討に加え精神的不安定な学生や障がいを持つ学生への対応について勉強会を開催して学生への対応力の向上を目指す必要がある。

課外活動として部活動があるが活動内容は各部活に委ねられておりいずれもこの2年間の活動は控えていた。

卒業生への支援体制も兼ねて校友会の設置はあるものの、活動内容が浸透していない現状がある。

③今後の改善方策

卒業後のキャリア支援としてRe:jobSUPPORTを確立しているが求人情報配信だけでなくホームページやSNSを活用した情報発信、交流の機会を創造していき、生涯学習の一助としたい。

「職業実践専門課程」認定校として社会ニーズを踏まえた教育環境の整備、業界の動向についても校友会を通してネットワーク構築に専念したい。

保護者との連携については各期末の成績評価を保護者宛（国内在住）に送付し、学生の修学状況において懸念点があれば、担任が保護者に連絡を取っている。

昨年度、外部委員の方より保護者懇談会実施のご提案を頂き、12月上旬の就職イベントとの同時開催を実現した。

また参加が困難な方に向けて学校の教育理念、教育目標、2年次学習カリキュラムや就職活動における本学のサポート体制や家庭での支援ポイントを伝えるべく保護者向け学校紹介動画を制作、今後も細やかな連携を取るよう努めていく。

学校関係者評価・コメント

●コロナ禍の影響はあると思うが、ここ数年での退学者の動向はどのようになったか？我々高校の現場でも退学者の増加を感じているが、大半は明確な退学理由は読み取れず、生徒の一方的な言い分には迎合すべきではないようにも感じている。（松田委員）

◎確かにコロナ禍の影響もあると思うが、昨年を上回る退学者を出してしまった。理由としては、以前は経済的側面を理由とするものが多かったが、現在は意欲の減衰など精神面での問題や目指す分野からの進路変更を理由とするものであったよう感じている。

これらについては更なる分析が必要だが、入学当初の目的が明確でなかったり・学生募集の際の理解不足などコミュニ

●学生サポートについては、幅広く展開されていて良いと思う。就職活動については本人だけでなく保護者も巻き込んでフォロー体制を築く必要があると思う。ゲームやアニメ・声優など親には特にわからないであろう業界でもあるので、ぜひ検討して欲しい。

●先のインターンの話もそうだが、産学共同や地域との連携を通じた課外活動なども積極的に取り入れてほしい。そうした活動を通じて自己の表現や作品発表の機会を得ることが、学生にとってはモチベーションアップであるであろうし、その姿がイコール親としての喜びであることも今一度認識いただき、学生支援また家族支援と考えていただきたい。（藤沢委員）

◎学校行事としての教育イベントや制作物の発表などはPRしていたが、保護者会としては開催できていない状況。今後検討する。

基準6 教育環境				
自己評価（評定・現状・課題・改善）				
評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1		
6-43	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2 1
6-44	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2 1
6-45	防災に対する体制は整備されているか	4	3	2 1
①現状				
<p>新専攻・コースのための実習教室の整備や、PCなどの機材設置など、学生が授業を受けるうえで必要とされる環境は整えている。</p> <p>インターンシップについても学務とグローバルキャリアデザインセンターで連携をし、バックアップやインフォメーションも行い、実施の手続きや企業との連携、報告などを徹底している。</p> <p>入学時に配布している学生手引き書（学習案内）に、災害対応、緊急避難先など記載しオリエンテーションで説明に加え電子学生証アプリにテキスト・マップを実装している。</p> <p>備蓄品として保存水、乾パン・クッキー、防災シート、簡易トイレなどを備えている。</p>				
②課題				
<p>PC実習授業が増加していることで、教室稼働のバランスには注意を要する。</p> <p>学生のインターンシップや研修は動きだす時期や期間も企業によって異なるため、引き続き報告の確認など漏れが無いようにしていく。</p> <p>防災時の組織体制の再確認、避難訓練などの計画を再策定する必要がある。</p>				
③今後の改善方策				
<p>小教室を改修し、実習可能な環境にすることで、新専攻・コースの授業や、高専接続の授業に対応できるようにする。</p>				
学校関係者評価・コメント				
●特になし				
◎現在、見ていただいた通り校舎外装改修工事中であり美観改善を図っている。工事完了後をご期待ください。				

基準7 学生の受け入れ募集				
自己評価（評定・現状・課題・改善）				
評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1		
7-46	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2 1
7-47	学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	4	3	2 1
7-48	学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2 1
①現状				
<p>(7-46) 学生募集活動については、スケジュール、手続きなどの規定に基づき適正に行っている。コロナ感染症対策のため、オンライン型のオープンキャンパスも並行して実施している。</p> <p>(7-47) 教職員全員が連携して、入学を検討する方に対しAO2.5教育を軸とした当校の教育方針を理解してもらうことに努めている。在学生の作品や行事なども、オープンキャンパスだけでなく動画配信などでも紹介している。教育活動を丁寧に伝えることで入学後のミスマッチを減らし、将来の就職に向けて意識を持って学生生活を開始できるよう取り組んできた。</p> <p>(7-48) 学納金については授業料や施設費のほか、教材費を徴収しているが、適切な計画に基づいているものである。</p>				
②課題				
<p>コロナ感染症の影響は明らかであり、オープンキャンパスの来校者数は減少した。オンライン型の説明も並行して行ったものの、参加数を補完するところまでは行かなかった。結果的に留学生、既卒者の出願が減少し、新年度の入学目標は達成できていない。</p>				
③今後の改善方策				
<p>引き続き、コロナウイルス感染症の影響は受け続けることになる。特に留学生は前年度の入国制限が尾を引き、次年度も対象者が少ないままとなる。そのため、新卒に対する取り組みを強化、具体的には高校1、2年生から継続的に入学検討をケアしていくことで、学生募集の維持を図る。</p> <p>また、高校との連携授業も徐々に拡充しており、高校の教員に当校の教育活動を理解してもらうことも進めていく。</p>				
学校関係者評価・コメント				
<p>●地域の小学生の活動にも参加しているが、小学生の夢については、興味が幅広く拡大し、且つ具体的に考えるようになってきていると思う。決して高校2年や3年生になって、学校で進路選択を迫られて方向を決めているものではないと感じた。（岡崎委員）</p> <p>◎現在、高校や日本語学校などへゲームやアニメ・声優の仕事体験とした出張授業を実施しているが、ご指摘を受けて今後の展開を発展させるよう考えてみたい。</p>				

基準8 財務				
自己評価（評定・現状・課題・改善）				
評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1		
8-49	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2 1
8-50	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2 1
8-51	財務について会計監査が適正におこなわれているか	4	3	2 1
8-52	財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2 1
①現状				
<p>コロナ感染症の影響もあるが、学納金収入は過去最大を記録しており、財務基盤的には問題がない。会計監査、情報公開も適切に行われている。</p> <p>予算策定、収支計画は、学校運営を維持するための基本的な部分を確保しつつ、新ジャンルにむけての投下も行い、将来的な成長への準備を行っている。</p>				
②課題				
<p>次年度以降の学納金収入の減少が課題として意識しておく。</p>				
③今後の改善方策				
<p>コロナ感染拡大の影響が現れているが、現状まで整えてきた資源（カリキュラム、環境、人員）があるため、着実な活用により学校としての価値を維持していく。</p> <p>また、可能な範囲での新分野に対する投下を行い、将来的な成長への布石も打っておく。</p>				
学校関係者評価・コメント				
●特になし				

基準9 法令等の遵守

自己評価（評定・現状・課題・改善）

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
	9-53 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2
9-54 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
9-55 自己評価の実施と問題点の改善をおこなっているか	4	3	2	1
9-56 自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

①現状

法令、専修学校設置基準等の遵守は、施設、教員数、カリキュラムの整備など徹底している。
個人情報保護について、教職員、非常勤講師に対してマニュアルを利用して指導をしており、意識的に漏洩が発生するなどのことは起きていない。
自己評価の継続的な実施、情報公開も問題なく行われている。

②課題

オンライン授業で使用しているシステムや、学生証アプリなどの通信手段の増加は、デジタルの個人情報漏洩の危険性も増加していることを意味している。
また、学内における資料の取扱いも引き続きチェックする必要がある。

③今後の改善方策

個人情報管理に関する教職員研修の実施を検討する。

学校関係者評価・コメント

●特になし

基準10 社会貢献・地域貢献					
自己評価（評定・現状・課題・改善）					
評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
10-57	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行なっているか	4	3	2	1
10-58	学生ボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
10-59	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1
①現状					
<p>学校の所在地となる千駄ヶ谷商店街商工会に所属しており、夏祭り際には学生によるボランティアを兼ねた模擬店の運営などを引き受けているほか、地域のPRのためのデザインコンペへの在学生の参加など地元自治体と密接に関わりを持っている。</p> <p>平成30年度より産学協同の一環で渋谷税務署から確定申告など税に関するCMの制作を毎年受諾。令和元年にはJR千駄ヶ谷駅からの依頼をもとに、千駄ヶ谷地域の散策マップ映像を制作し、千駄ヶ谷駅構内にて公開した。</p> <p>令和2年からは区外でもイベント協力を行い、港区スポーツふれあい健康文化財団イベント内で声優ワークショップを実施したほか、都内の高等学校からの要望に応じて、本校の有する分野での専門技術の指導をスタートしている。</p>					
②課題					
<p>2021年の東京オリンピック時は千駄ヶ谷地域の学生にボランティア協力も検討されていたが、オリンピックの観戦ルールにも大きな変更が繰り返されたため実施はなされなかった。</p> <p>他にも感染症リスク軽減のためか目立ったボランティアの募集活動はなかった。</p> <p>本校の専門教育分野に限らず学生の地域協力や社会貢献を推進できるような枠組みが必要に感じる。</p>					
③今後の改善方策					
<p>コロナ過の後には学園祭など地域住民との交流が図れるようなイベントを計画していく。</p>					
学校関係者評価・コメント					
<p>●コロナ禍でこしばらく地域振興も縮小気味だったので、徐々に復活できればと考えている。アニメキャラバンが小学生対象の作品発表会ということなら、現在、千駄ヶ谷小学校において地域の特性を生かした教育を取り入れ始めているので、ぜひその活動にも協力して欲しい。先にも挙げたが小学生の夢は先々の職業への動機づけに強くつながっていると思われる。地元では将棋会館や能楽堂にも協力してもらっており東京クールジャパンからも、小・中学生にフィットした情報を伝えたり、業界の意識を持ってもらうような働きかけを行いながら、一緒に地元を盛り上げてほしい。（岡崎委員）</p>					

基準11 国際交流					
自己評価（評定・現状・課題・改善）					
評価項目		適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			
11-60	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4	3	2	1
11-61	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がおこなわれているか	4	3	2	1
11-62	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1
11-63	学修成果が国内外で評価される取り組みをおこなっているか	4	3	2	1
①現状					
<p>当校は適正校として留学生担当外国籍スタッフ3名が入学相談業務から入学後のビザに関する諸手続きや学修面のフォロー、在籍管理や進学や就職進路指導に至るまでの一連の業務を担うことで情報の一元化を可能としている。</p> <p>学園本部の日本語教員資格を持つスタッフによるレベル別日本語授業は正規授業として設定しており両学年対象JLPT試験のためのエクステンション講座、2年次は進路別（進学・就職）でシラバスを作成、細やかな支援を実現している。</p> <p>留学生の募集活動については学園本部に国際部を編成し、指定校締結している日本語学校を中心に国内留学生対象の進学ガイダンスへのブース参加や海外エージェントとの連携、海外SNSや媒体を介したプロモーションを展開している。</p> <p>また日本語学校向けに実技中心の特別授業のメニューを策定、出張授業を実施して入学促進を図る取り組みにも積極的に関わっている。</p> <p>評価される取り組みとしては、国内では学生の成果や活動はホームページやSNS、公式YouTube、国外においては各国の海外エージェントを通して実施するオンライン学校説明会等で動画を通じて知らせており高い関心を頂いている。</p> <p>コロナウイルス感染拡大下で日本へ渡航できなかった留学生に対しては、不利益にならないよう継続した学修ができるよう配慮した上で、入国時に係る宿泊費及び交通費の補助等を行い、費用負担の軽減により早期の対面授業への参加を促した。</p>					
②課題					
<p>夏季特別プログラムとしてeスポーツ専攻がAdachi学園グループの姉妹校でもあるAdachi International College (AIC)と連携したオンライン語学留学プログラムを活用し学修した。多角的な視点を持ち、社会的知性の高いグローバル人材となるための教育の提供は 促進して行かねばならないと考える。</p> <p>国籍、文化的背景、留学目的、留學生活の様相は多様であり、1つの留学生像をもって判断することはできないが、19か国の出身国の留学生のうち非漢字圏は2割程度、特に東南アジア、南アジアの出身はごく少数。</p> <p>アルバイトに傾倒してしまう学生よりも、不明確な目標による進学とオンライン授業で相対的な進捗の把握が出来ず受動学習に終始してしまった学生もおり、モチベーションが維持しやすい仕組みが不可欠だと感じた。パフォーマンスを視覚化し補助線を引き到達ラインを伝える指導内容で学習効果を高める施策を試みたい。</p>					
③今後の改善方策					
<p>コロナウイルスにより社会生活にも大きな変化をもたらした。将来の見通しが困難でもあった。</p> <p>学生自身が活動を躊躇し、十分な就職活動を行わず卒業後は帰国を志望する学生も見受けられた。とはいえ一定の条件を満たし学校推薦のもと特定活動（就職活動）で卒業後就職活動を継続した学生の9割が内定獲得している。</p> <p>一定層の留学生は自己完結または留学生仲間からの情報のみで判断、対処する傾向もあることから、①学校生活に係る事前の情報提供②学業不振に陥らない為の支援③学業不振に備える支援、この点に注力した体制の構築を行いたい。</p> <p>また進路の多様化に伴い、帰国後就職、進学後就職、起業やフリーランス活動など、卒業後の活躍については、継続して把握に努めたい。</p>					
学校関係者評価・コメント					
●特になし					

評価項目の達成及び取組状況と総合評価

全63項目中、「適切」…48、「ほぼ適切」…15、「やや不適切」…0、「不適切」…0であった。

前年度に対し「ほぼ適切」から「適切」への改善が+2項目ある。

(3-27) 職員の能力開発のための研修等が行われているか…業界、分野の専門的な勉強会を実施し、学生指導へ活かすとともに職業実践専門課程に全学科が認定されたことにもつながっている。

(7-47) 学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか…コロナ感染症の影響も踏まえ、オンラインでの説明や学生活動の動画配信など、新たな手段で広く伝えてきている。

また、その他の項目においても、コロナ感染症拡大下で硬直しつつあった前年度に比べてブラッシュアップを行い、運営改善につなげている。(教育活動、学生支援)

その反面、いまだコロナ感染症の影響から制約を受けている面もあり、教育成果における実績や学生募集における留学生数の減少など、次年度に続く懸念事項は存在している。専門学校を取り巻く状況はこれまでのような拡大維持傾向から明らかに変容してきているため、外的環境に対応する視点も重要となってくる。

全般的に学生へのケアを手厚くしようと取り組んでおり、こまめな改善を行ってきた。今後は学生の成果に対する意識を教職員が共有し、対外的にも発信していくことで学校の発展につなげていきたい。

総括

この1・2年間はコロナ禍において試行錯誤の中の学校運営・教育活動ではあったが、今回ご提言にもあったように、Withコロナ・Afterコロナの学校として取り組んでいく。コロナ禍でもゲーム業界の様に伸びている企業は少なからずある。いつまでも「コロナだからしょうがない」と言われていられる状況ではない。SNSやオンライン技術を活用して新たな取り組みを実施していくべきであると考え。また学生に対しては、絶対的に不足してしまった一人一人に対するケアを学生募集の段階からその時々学生の成長度合いに併せたフォローを心掛けていきたいと考えている。特に継続率の問題は重要で、学生との日常のコミュニケーションから、問題の芽を早くつかみ、学生の考えや感情を理解することによって改善していきたい。

その為にも本校の活動やあり方を見直し、強みを踏まえて新たな活動や提携企業や組織との連携を深めていくとともに活動の幅を広げていく。学校側も学生のニーズをくみ取りながら「露出を高めていく・世に出していく」ことを意図している。今回指摘いただいた事項を踏まえてより良い教育と学校運営を実現すべく教職員一同努力していく。